

「ヤコブの逃走」

2021年04月12日

「夢の中で神の使いが『ヤコブ』と呼ばれたので、私は『はい』と答えた。するとこう言われた。『さあ、目を上げて見なさい。群れで交尾する雄山羊はすべて、縞とぶちとまだらのものだ。私はラバンがあなたにしたことをすべてを知っている。あなたはベテルで柱に油を注ぎ、私に誓いを立てた。私はベテルの神である。今すぐこの地を出て、生まれ故郷に帰りなさい。』」（創世記 31 章 11 節～13 節）

ヤコブは岳父ラバンの元からの逃亡を図る。20年前、兄エサウの殺意から逃れたが、二度目の逃亡劇である。ヤコブは、ラバンの息子たちが「ヤコブは父のものをすべて奪い取ってしまった。彼があのような財をなしたのは、すべて父のものによってなのだ」と言っているのを耳にした。また、ラバンの態度は以前と違い、憎しみが見られた。神はヤコブに、「あなたは先祖の地、親族のもとに帰りなさい。私はあなたと共にいる」と告げた。ヤコブの故郷への帰還の決意は固まった。彼は二人の妻ラケルとレアを、誰にも聞かれないように、野原に呼び寄せ、切々と語った。お義父さんの態度は以前のようなようではない。私が力の限りを尽くして、お義父さんに仕えてきたことはあなたがたもよく知っている。それなのに、お義父さんは私を騙して、報酬を十回も変えた。お前の報酬は、ぶちのものとと言えば、群れは皆ぶちのものを産んだ。縞が報酬だと言えば、群れは皆縞のものを産んだ。群れが発情する時期に、私は夢の中で目を上げて見ると、交尾する雄山羊は、縞とぶちとまだらのものであった。お義父さんと約束したこれらの家畜を、神は私に沢山恵んでくださった。その神の使いが夢の中に現れ、告げられた。「『ヤコブ』と呼ばれたので、私は『はい』と答えた。するとこう言われた。『さあ、目を上げて見なさい。群れで交尾する雄山羊はすべて、縞とぶちとまだらのものだ。私はラバンがあなたにしたことすべてを知っている。あなたはベテルで柱に油を注ぎ、私に誓いを立てた。私はベテルの神である。今すぐこの地を出て、生まれ故郷に帰りなさい。』」ヤコブはエサウから逃れ、石を枕に野宿した夜、夢で、神はあなたとあなたの子孫を祝福する、あなたと共にいて守り、故郷に連れ戻すと聞いた。そこをベテル（神の家）と名付けた。石の柱に油を注ぎ、誓いを立てた時の神が、今すぐこの地から、生まれ故郷に帰りなさいと言われた。ラケルとレアは、心を込めて訴えるヤコブの言葉を聞き、彼の訴えと決意を理解して言った。「父の家には、私たちの取り分や相続分はまだあるでしょうか。私たちは父に他人のように見なされているのではありませんか。父は私たちを売り渡ししながら、私たちのそのお金を使い果たしてしまっただけです。神が父から取り上げた富は、すべて私たちのもの、また私たちの子どもたちのものです。ですから、さあ今すぐ、神があなたにおっしゃったことは何でもなさってください。」彼女たちは召し使いを抱き込んで、ヤコブの愛を得ようと壮絶な闘いをしてきたが、今や、同じ思いに立っている。父ラバンはヤコブの仕事の力量を見込んで豊かになろうと、自分たちを道具のように利用してきた。そして、夫ヤコブの誠実な働きとその成果を見て来た。もはや、父よりも夫の方が信頼でき、従いたいと同意したのである。ヤコブは勇気百倍の支援の言葉を聞いた。子どもたちと妻たちをらくだに乗せ、パダン・アラムで得た全ての家畜と財産をまとめ、カナンにいる父イサクの元へ逃亡を企てた。ラバンを欺いて、逃げることを知らせなかった。ヤコブ一族は川を渡り、ギルアドの山地に向かった。この時、ラケルは、父が羊の毛を狩りに出ているので、父の守り神である「テラフィム」を盗み、持って逃げた。このことが、ヤコブの逃亡に有利に働くことになる。